参加学生の感想

▶ 牛を目の前にすると思っているよりも大きくて怖い。触ってみるとあたたかい。糞尿の掃除は案外重たくて力が必要で大変。搾乳は難しいけど、全部終わったら達成感がある。体験中にはいろんな気持ちを体験した。それでようやく自分事として捉えられるようになった。教育は学校内で留めてしまうのではなく、地域へ、社会へと出て、体験できる機会を大人が用意する必要がある。

（北海道出身、３年生）

▶ 酪農に対する「大変そう」という漠然とした印象は、「大変だからこそ誇りを持てる仕事」という前向きな認識に変化した。酪農は私たちの生活を支える重要な産業であり、現場に立つ人々の努力と工夫によって成り立っている。子どもたちが酪農を身近に感じるために教師ができることは工夫次第で何通りでもある。思いついたアイデアを実践していくことが求められている。

（茨城県出身、３年生）

北海道教育大学釧路校

酪農家民泊体験2025

概要

参加学生：９名（釧路校３年生９名）
実施期間：５月～７月
実施方法：対面および遠隔（オンライン）
根室管内酪農家宅での
酪農作業体験・生活体験
協　　力：根室地区農協青年部連絡協議会
ＪＡ北海道中央会根釧支所
教育地域サポート
一般社団法人十勝うらほろ樂舎
☆HappyLand☆安達牧場

これまでの酪農家民泊体験の様子はこちら

酪農家民泊体験　検索

お問い合わせ先

☎ 0154-44-3205
〒085-8580
北海道釧路市城山１丁目１５番５５号
北海道教育大学教育学部釧路校
（担当：准教授 宮前 耕史）

令和８年３月発行

hue 北海道教育大学釧路校

いのち・食
生きるに触れる！

酪農家民泊体験2025
実施報告

いのち・食
生きるに触れる

《体験の趣旨》

命の糧・食とこれを産み出す第一次産業・農山漁村の価値・重要性を子どもたちに伝えていくことは、教員の大きな役割です。とりわけ過疎化が進行する農山漁村において、そうしたことの価値を正しく理解し、子どもたちに伝えていくことのできる教員を養成することは、地域や社会の持続可能性に直結する大きな問題です。

こうした課題意識に基づいて、北海道教育大学釧路校では、平成25年（2013）以降、我が国最大の酪農地帯に位置する北海道東部地域の地域特性と、教員養成大学としてのキャンパスの特性を生かし、根室地区農協青年部連絡協議会・ＪＡ北海道中央会根釧支所・教育地域サポート・十勝うらほろ樂舎等の協力を得て、教師を目指す学生を対象とした酪農家民泊体験を実施してきました。

新型コロナウィルス感染症流行のため、令和２年度（2020）と令和３年度（2021）は完全オンライン、令和４年度（2022）は宿泊を伴わない日帰りの酪農体験、そして令和５年度（2023）は１泊２日の酪農家民泊体験として実施していましたが、令和６年度（2024）以降、１泊２日の酪農家民泊体験に加え、振り返り合宿も含めた２泊３日の行程で実施しています。

お世話になった酪農家さんたちと参加学生

2025年

5月

ガイダンス・講義

大学教員やコーディネーター、受入酪農家さん、ＪＡ職員、地元酪農家さんから話を聞き、酪農家民泊体験の意図やこれまでの成果、牛の生態や酪農の仕事、協同の意義、食農教育といった事柄について理解を深めました。また、学生を支援すると同時に様々な困難に直面している酪農家の現状を学生に知ってもらうため、根室地区農協青年部連絡協議会主催の乳製品配布イベントのお手伝いをしました。

青年部連絡協議会による「酪農勉強会」

6月

酪農家民泊体験

５月16日（金）～18日（日）に酪農家民泊体験実習を行いました。１日目は根室農業会館で根室地区農協青年部連絡協議会の皆さんを講師とした酪農勉強会と入村式・アイスブレイクを行った上で、２名ずつのグループに分かれて、受入酪農家さんのお宅での１泊２日の民泊体験に臨みました。２日目には受入酪農家さんとバーベキューをしながら、意見・感想の交流を行い、３日目にかけ振り返り合宿を行いました。

酪農家民泊体験の様子

7月

成果発表会

７月23日（水）、学びの成果発表会を行い、対面・オンラインを合わせて24名の参加がありました。参加した受入酪農家さんからは、「教師と農家の両方の視点から考えた発表に心を打たれた」「今回できたつながりを大切にしていってほしい」「教師になった時、今回の学びをぜひ実践してほしい」など、将来教員を目指す学生たちへの期待と応援の言葉をいただきました。

成果発表会当日の模様